

乾燥初期、中期、後期 いずれもはっきりした定義はありません。しかし、乾燥の現場や研究者の間で使われている事例から、およその意味をくみ取ることができるので、参考までに以下に示します。

乾燥初期 …………… 広葉樹板材の乾燥では初期条件を維持する期間をいいます。
このマニュアルで扱っている針葉樹構造用材の乾燥では、単に乾燥工程の初期という意味で使われることが多いようです。構造用針葉樹材の乾燥では、高温セット処理を乾燥初期とする考え方と、高温セット処理は前処理であって、その後、乾燥工程が始まるとする考え方があります。

乾燥中期 …………… 広葉樹板材の乾燥では、あまり使われないようです。心持ちの針葉樹構造用材の乾燥において、高温セット処理の後、内部割れが生じ始めると思われる時期までの期間を乾燥中期と呼ぶ場合があります。

乾燥後期 …………… 広葉樹板材の乾燥では乾燥末期と呼ばれることが多く、この場合は表面の含水率が装置内の温度、湿度条件に対応する平衡含水率とほぼ同じになるころで、平均含水率が15～20%を下回って以降を表します。
心持ちの針葉樹構造用材の乾燥では、内部割れ発生の危険があると思われる時期を乾燥後期と呼ぶことが多いようです。平均含水率で30～40%以下といった感覚で使われることが多いようですが、コンセンサスはないようです。

乾量基準含水率 …………… 木材の取引において、通常使われる含水率のことです。チップの取引などでは湿量基準含水率が用いられます。

クリープ変形 …………… 木材に一定の荷重を継続して負荷すると、時間の経過とともに変形は増大します。この変形をクリープ変形と言います。また、負荷した荷重が大きいとクリープ変形が進行して破壊（クリープ破壊）を生じることもあります。クリープ現象については本マニュアルの3ページでも解説されています。

高周波加熱 …………… 高周波電界内で対象物を温める加熱方法です。
平行電極間に木材を置いて、誘電加熱によって温めます。

降伏耐力 …………… 接合部の損傷が生じないか、または生じていないと見なすことができる限界の耐力です。

【さ】

材面 …………… JAS「製材の日本農林規格」によると、板類（構造用製材の板類を除く）では面積の大きい2平面、構造用製材の角類においては木口を除く4平面を指します。